

2023年9月10日

「逆らう世のただ中で」

使徒言行録 4:23-31

竹島 敏牧師

聖霊に満たされた弟子たちの宣教の業は、多くの信者たちのとりなしの祈りによって支えられていたことが記されています。彼らが挫けてしまわなかったのは、信者たちの篤いとりなしの祈りがあったからです。

イエスを救い主として信じる信仰を与えられていながら、その主を信頼して従うことができない時がしばしばある私たちです。イエスの霊に逆らい続けるこの世にあって、様々な問題を抱え込んでしまったとき、私たちも、かつてのペトロのように疑いさまようことがあります、という事を認識しておく必要があると思います。しかし、同時に私たちは、そのような葛藤と格闘を通して初めて、主イエスの霊に豊かに満たされ、主イエスとの深い出会いを経験するのだということも、覚えておきたいと思うのです。

かつて私は、洗礼を受けても何も変わらない自分に、そしてキリスト教に失望し、教会を離れたことがありました。毎日が空虚で、気づけば十字架を探して街をさまよっていました。それは十字架の主を心の底から求めていたことに他なりません。最終的に私が辿り着いたことは、この世の知恵や知識をも豊かに用いて、主イエスは私を見捨てることなく救ってくださる、ということでした。それが、神が私に示されたことでした。そしてそこに至るまでには、教会の友たちの祈りと見守りがありました。

大事なものは、簡単にあきらめないことです。祈り、祈られて、互いに見守り合う、そのような祈りの交わりの中で、安心して、徹底的に葛藤し、格闘し、その先にある、主イエスとの深い出会いに辿り着くことができますように。